

小・中学校に向けた防災教育の取組みとその効果

○(株)荒谷建設コンサルタント フェロー 山下祐一 復建調査設計(株) 藤本 睦
中電技術コンサルタント(株) 正会員 古川 智 (株)ヒロコン 青原啓詞

1. はじめに

中国地方では、毎年のように多くの土砂災害が発生し、大きな被害を受けている。土砂災害による被害を軽減するために、(社)建設コンサルタンツ協会中国支部では防災教育を実施している。これまで、広島市内を中心に、広島県内、鳥取県内で防災教育を実施してきた。広島市西区己斐上小学校、己斐上中学校で行った防災教育結果や効果について報告する。

2. 防災教育の取組み

地域の防災力を向上させるためには、人・技術・データの各項目を改善することが重要とされている。特に、人についての課題が顕著であり、地域の研究者や技術者が不足していることや、地域住民の意識が十分でないこと及び防災にかかわる広報や防災教育も不足しているのが現状である。そこで、地域住民に対して防災に関する実務専門家が実際に地域活動の中に入り、防災教育を行ってきた。防災教育は、小学校や中学校での活動のほか、高齢者や自主防災組織を対象として行い、地域防災力の向上を目的としているが、地域からも防災教育に対して要望も出てきている。

3. 広島市立己斐上小学校、己斐上中学校の防災教育

広島市西区己斐上学区は、広島市中心部から西方の山間の地区であり、がけ崩れや土石流の土砂災害危険箇所の多い場所であるとともに、多くの住宅団地が造られている。この地域には活断層である「己斐断層」の存在が確認されており、地震の際には災害が拡大するおそれがある。今回実施した学年、生徒数、授業内容等は以下のとおりである。

対 象 広島市立己斐上小学校 6年生66名
広島市立己斐上中学校 1年生39名
2年生43名、3年生55名 合計137名

授業の内容は、①災害の概要(講義)、②防災クイズ(演習)、③ハザードマップの作成・発表(演習)、④警戒・避難(講義)を2コマで行った。ただし、中学校の教育では、間に避難訓練を入れて全生徒が体育館に集合して、警戒・避難の講義をした。

授業の様子として、小学校、中学校とも熱心に受講いただいた。この地域も1999年の広島災害や2001年の芸予地震などの影響を受けており、関心の高さが伺えた。授業は講義も行うが演習を中心とするため、授業の理解度も向上したと思われる。演習の1つのハザードマップ作成は生徒の多くが地図を覗き込んで、自分の家と土砂災害危険箇所と己斐断層の位置を見比べていた。ハザードマップ作成では住宅団地の中は意外と安全であるが、その周囲の危険箇所をどう認識するかが問題となった。特に通学時、避難時の安全性確保が議題となり、十分な協議が必要と考えられた。



写真1 己斐上小学校の授業の様子



写真2 己斐上中学校の授業様子

4. 防災教育アンケート結果

今回、己斐上小学校 66 名と、己斐上中学校全校生徒 137 名からアンケートの回答をいただくとともに、生徒全員から授業を受けた感想もいただいた。これは授業したあとにアンケートの時間をとっていただいたことによるものである。

アンケートの結果、授業内容の理解度として、「たいへんよくわかった」、「だいたいわかった」を併せると己斐上小学校は 94%、己斐上中学校は 93%となり、ほぼ同じ結果となった(図 1)。

「最近災害がおこりそうだと感じたことがありますか」の質問に、中学生で「ある」と答えた生徒は、中学 1 年生で 10%、中学 2 年生 28%、中学 3 年生 35%と次第に増加する傾向が見られた。これは、災害に対する関心の高さが中学 3 年生が一番高い、あるいは年とともに災害への実感がわいてくるものと思われる。

「授業を聞いて、災害が起こりそうな時に、うまく避難することができますか」との質問に、「できる」と答えた生徒は、小学 6 年生が 55%、中学 1 年生 32%、中学 2 年生 33%、中学 3 年生 58%と違いが見られた(図 1)。これは、小学校でも中学校でも最高学年はそれなりの自覚がある理由とも考えられる。

避難所の位置や避難路に関しては 90%以上の生徒が「知っている」と答え、雨量や災害情報についても 70%以上の生徒が「知っている」と答え、授業の成果が表れたものと考えられる。

授業の感想として、小学校 6 年生でも「普段の生活の中で危険な場所があったし、避難場所をちゃんと確認することができました。がけ崩れ、土石流とか災害があんなにすごいとあらためてわかりました」、「授業は楽しかったし、これから災害は起きてほしくないけど、もし起きてもだいじょうぶです。今日家に帰ったら家族でもう一度災害のことについて話し合いたいです」など力強い意見をいただきました。中学生も全員感想を書いてくれるなど災害への関心は高いものであった。

小学生、中学生の防災教育を通じて、生徒たちは身近に発生している災害の実態をよく知らないのが実情のようで、今後も防災教育活動は必要であり、継続的な活動が重要と思われる。

5. まとめ

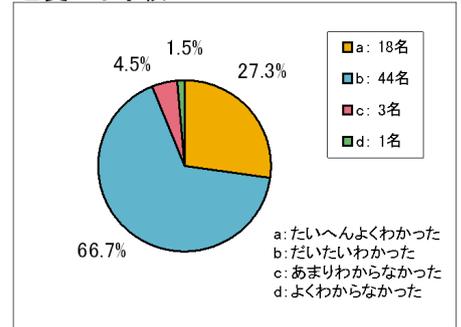
広島市立己斐上小学校、己斐上中学校の防災教育の結果は次のようにまとめられる。

- ①小・中学生とも災害に対する関心はあるものの災害の実態を知らない生徒が多く、演習を通して理解を深めることができた。
- ②地域の災害を軽減するためには防災教育は有効な方法である。
- ③小学 6 年生、中学生は災害への理解や避難の方法も理解できるので、さらに訓練を行えば地域の防災力の向上の役割を担うことができる。
- ④地域防災力の向上には産官学の連携など地域ぐるみの対応により、より効率的、効果的な方法を検討する必要がある。

Q1: 授業の内容はどれくらい理解できましたか？

(回答数: 66)

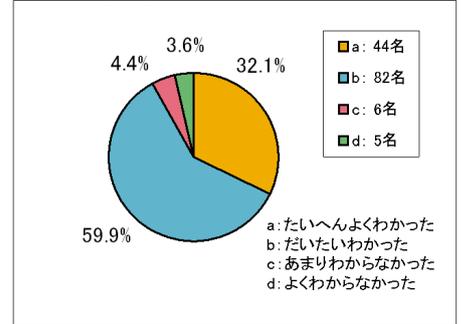
己斐上小学校



Q1: 授業の内容はどれくらい理解できましたか？

(回答数: 137)

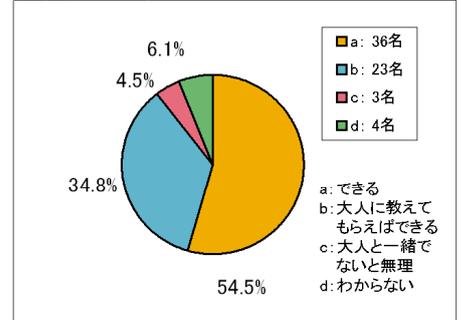
己斐上中学校



Q5: 今日の授業を聞いて、災害が起こりそうな時、うまく避難ができると思いますか？

(回答数: 66)

己斐上小学校



Q5: 今日の授業を聞いて、災害が起こりそうな時、うまく避難ができると思いますか？

(回答数: 136)

己斐上中学校

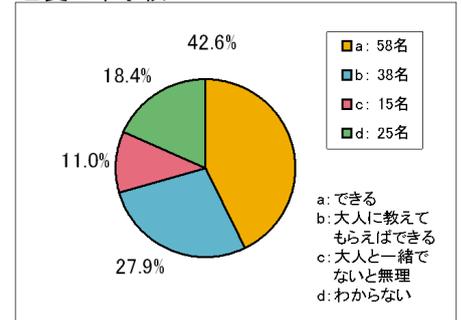


図 1 己斐上小・中学校のアンケート結果